

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

農業高校としての機能を最大限に活かし、社会や産業の発展に貢献できる人材を育成することにより、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着と、これらを活用して主体的に課題を解決するための思考力、判断力、表現力、創造力などを身に付けさせる。
- 2 生命と人権、自然と環境を大切にできる態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力やチャレンジ精神を育む。
- 4 地域や産業界等との連携を密にし、様々な社会資源を活用した教育活動を展開し、府立高校あるいは農業高校としてのニーズと期待に応える。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

## (1) 社会に開かれた教育課程の実現

ア 農業高校としての強みを活かし、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育むための教育課程を編成する。

\*令和4年度からの教育課程を編成するとともに、形成的評価を通じ、常に魅力あるものへと高めていく。

イ 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力を着実に育成する。

\*各教科における育成したい資質・能力を明確化し、観点別学習状況の評価を導入する。

## (2) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。

ア 1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入し、個々の生徒に応じた、きめ細かな指導により基礎学力を向上させる。

\*授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」(H30 3.14 R1 3.18 R2 3.24)を令和5年度には3.30にする。

イ アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させ、生徒が主体的に学習に取り組むための環境づくりを進める。

\*授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができていく」(H30 3.24 R1 3.30 R2 3.37)を令和5年度には3.50にする。

ウ 学力委員会を設置し、「高校生のための学びの基礎診断」の導入と効果的な活用等について研究する。

\*教育産業の基礎学力調査を活用するなど、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルを構築する。

エ 生徒全員に配布されるタブレット端末を利用した、より効率的で魅力ある授業作りについて研究する。

\*学習支援クラウドサービスの活用により、本校ならではのオンライン授業システムを構築する。

## (3) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。

ア 各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科との連携方法について研究する。

\*授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」(H30 3.16 R1 3.18 R2 3.27)を令和5年度には3.35にする。

イ 課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。

\*農業クラブ大阪府研究発表会に向けた発表本数を増加させる。

ウ 「知財力開発校支援事業」の研究指定を生徒の知的財産への理解向上、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。

\*知的財産教育を教育活動に定着させる。「園芸高校ブランド」を形成する。

## 2 安全安心で魅力ある学校づくり

## (1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。

ア 教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。

\*遅刻による早朝指導対象生徒数(H30 108名 R1 86名 R2 119名)を毎年1割以上減らし、令和5年度には60名にする。

イ 災害時の生徒の安全確認を迅速に行うとともに、帰宅困難となり一定期間待機せざるを得ない生徒の安全を確保する。

\*学校ウェブページに開設した緊急連絡フォームと学習支援クラウドサービスを活用し、安全確認を行う。

## (2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を確立する。

ア 職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制をさらに充実する。

\*生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(肯定率 H30 70% R1 73% R2 70%)を令和5年度には76%にする。

イ 中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた指導を推進する。

\*年度末の進級率・卒業率(H30 95% R1 95% R2 96%)を令和5年度に98%とし、それを維持する。

## (3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立

ア 生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。

\*ともに学びともに育つという理念のもとで、自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制を完成させる。

## (4) 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成と学校の魅力の発信

ア 教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、校務についての組織的、効果的、効率的な遂行を図る。

\*教職員の問題事象をなくすと同時に、働き方改革による長時間勤務の是正を進める。

イ 府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。

\*学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成、学校ウェブページ更新、報道提供を推進する。

ウ 創設されたネットフェンス等を通じ、本校教育の見える化を進める。

\*老朽化による危険な施設・設備について計画的に撤去・改修を進める。

## 3 夢と志を持つ生徒の育成

## (1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。

ア 就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。

\*学校紹介による就職率100%を維持する。農業関連分野への就職を促す。海外での研修を実施し、異文化交流等の体験により国際的な視野を育む。

イ 進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。

\*大学進学に対応した教育課程を編成する。国公立大学や難関私立大学への進学者15名以上を目標とする。

ウ 各学科の学習内容を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。

\*導入したキャリア・パスポートについてキャリア形成に向けての有効な活用を図る。

アグリマイスター顕彰制度認定者(H30 7名 R1 5名 R2 2名)を令和5年度には15名にする。

## (2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する

\*生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(肯定率 H30 70% R1 70% R2 72%)を令和5年度には78%にする。

イ 農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。

\*農業クラブ加入率(H30 48% R1 53% R2 46%)を令和5年度に60%とし、それを維持する。生徒、保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 生徒</p> <p>○全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定率は1年生78%、2年生75%、3年生74%となり、全学年で大きく増加した。</li> </ul> <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育に特色があること(98%)</li> <li>・実験実習の施設設備が整っている(94%)</li> <li>・この学校は他の学校に比べ就職に有利だ(93%)</li> <li>・先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている(91%)</li> <li>・この学科に入学してよかった(90%)</li> </ul> <p>*前年度より大きく増加した項目が多い。</p> <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動に関心が高い(35%)</li> <li>・ボランティアや地域活動への参加の機会がある(40%)</li> </ul> <p>*生徒会クラブへの入部率の低さなど、授業以外での活動が不活発であることが、これらの肯定率の低さにつながっている。</p> <p>2 保護者</p> <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が独自の教育活動を行っている(99%)</li> <li>・地域連携を積極的に行っている(95%)</li> <li>・学校の雰囲気がよく生徒が生き生きとしている(91%)</li> <li>・地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが示されている(91%)</li> </ul> <p>*前年度より大きく増加した項目が多い。</p> <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動は活発である(76%)</li> <li>・授業参加や学校行事に参加したことがある(76%)</li> <li>・部活動の活発である(76%)</li> </ul> <p>*コロナ禍により保護者が参加できる行事が極めて少なかったことが原因。</p> <p>3 教職員</p> <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や生徒のニーズに合った特色がある(100%)</li> <li>・きめ細かい進路指導を行っている(97%)</li> </ul> <p>*農業高校の特性を活かし進路指導を充実させている。</p> <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加する体制が整い、その成果を職員に伝える機会がある(48%)</li> <li>・部活動の活性化への工夫(50%)</li> <li>・施設・設備の長期的、計画的な拡充(56%)</li> </ul> <p>*コロナ禍により教育センター等での研修の機会が減ったこと、大半の施設・設備が老朽化している。</p>	<p>第1回(6/29)</p> <p>○会長、副会長の選出</p> <p>○学校教育計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべて承認を得られた。</li> </ul> <p>○各分掌等の今年度の取組目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の時に基礎学力を身に付けさせて欲しい。</li> <li>・生徒に学力差があるので、オンライン学習の活用が有効である。</li> </ul> <p>○令和2年度卒業生進路状況</p> <p>○令和4年度使用教科書について</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人になるとPCを利用したプレゼンテーションの機会が多いので技術を身に付けさせておく必要がある。</li> </ul> <p>第2回(11/29)</p> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりとコロナ対応ができている。生徒が主役になれる授業を実践すべき。</li> <li>・この学校でしかできないことをウリにすべき。</li> </ul> <p>○第1回授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ意欲が学年進行で上がっているのは良い。</li> <li>・学年により値が異なるので、その検証が必要である。</li> <li>・授業理解については、授業の展開方法を工夫すれば、値が上がる。</li> </ul> <p>○進路状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学校への進学が減っている理由を検証すべき。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や大阪府研究機関と連携しオリジナルソースを開発したことは特筆すべき。</li> <li>・教育内容がSDGsの達成とリンクする分野が多いので全面的にアピールすべき。</li> </ul> <p>第3回(3/7)</p> <p>○令和3年度 学校経営計画及び学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値化が難しい項目について数値化する必要はあるのか。</li> <li>・すべて承認を得られた。</li> </ul> <p>○令和4年度 学校経営計画及び学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsを目標にするのは、生徒の自信につながる。</li> <li>・すべて承認を得られた。</li> </ul> <p>○令和3年度 各分掌等の取組目標・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の関係から農場部のみ紹介(委員には資料を送付済)</li> </ul> <p>○学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関りが少ない。地域との関係性を大事にしてほしい。</li> <li>・%で示すなら総数を記載すること。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度外部での表彰など</li> <li>・卒業研究発表会について</li> <li>・PTA学習奨励金での活動について</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 社会に開かれた教育課程の実現</p> <p>(2) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。</p> <p>(3) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。</p>	<p>(1) ア ・農業高校としての強みを活かし、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育むための教育課程を編成する。 イ ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力を着実に育成する。</p> <p>(2) ア ・1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入する。 ・付けさせるべき学力と付けさせるための方法について研究する。 イ ・アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させる。 ・学期ごとに生徒の学習状況調査を実施する。 ウ ・「高校生のための学びの基礎診断」の導入をめざし、学力向上に向けての具体的な方法について研究する。 エ 生徒全員に配布されるタブレット端末を利用した、より効率的で魅力のある授業作りについて研究する。</p> <p>(3) ア ・各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科や他の教科との連携方法について研究する イ ・課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。 ウ ・「知財力開発校支援事業」の研究指定を生徒の知的財産への理解向上、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。</p>	<p>(1) ア ・令和4年度入学生の教育課程について社会に開かれた教育課程として確定させる。 イ ・各教科における育成したい資質・能力を明確化させる。</p> <p>(2) ア ・授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」を3.26にする。[3.24] イ ・授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができています」を3.39にする。[3.37] ウ ・学習支援クラウドサービスを活用した自宅等でのオンライン学習を進学希望者対象に試行的に導入する。 エ ・学習支援クラウドサービスの効果的な活用を研究し、教室等の授業でタブレット端末を利用する。</p> <p>(3) ア ・授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」を3.29にする。[3.27] イ ・農業クラブ大阪府研究発表会には、すべての学科において意見発表3部門、研究発表3部門へのエントリーをめざす。 ・福島県と連携した「第3回高校生未来サミット」への参加を通じ、地域の課題を発見し解決していくための力を育む。参加満足度90%を確保する。 ウ ・学校設定科目「探究創造」において、知的財産教育を展開し、パテントコンテスト5名以上の出場をめざす。[2名] ・「園芸高校ブランド」としての商品を開発・販売する。</p>	<p>(1) ア ・新たに農業科目「地域資源活用」を導入。進学選択科目枠を増やすことにより、生徒のニーズに応えるものとした。(◎) イ ・各教科で観点別評価を試行導入。次年度の実施に向けて、教務内規等についても整理。(○)</p> <p>(2) ア ・授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」は、3.29に向上。(◎) イ ・授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができています」は、3.39に向上。(◎) ウ ・36名(1年14人・2年8人・3年14人)が学習支援クラウドサービスを活用。次年度は新入生全員に導入し学力向上につなげていく。(○) エ ・11月にタブレット端末を配布。学校教育自己診断等でも活用。引き続き授業内外での効果的な活用を研究する必要がある。(○)</p> <p>(3) ア ・授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」は、3.32に向上。(◎) イ ・すべての学科ですべての部門にエントリーすることはできなかったが、校内での発表数は倍増し、2部門で大阪府最優秀となった。 ・「第3回高校生未来サミット」に参加した15名全員が高い満足度を有し学びの成果を実感することができた。(◎) ウ ・外部講師を活用するなど知的財産教育に力を注いだ。パテントコンテスト出場は0名であった。(△) ・廃棄される果実や野菜を用いた本校オリジナルソースの開発と販売が実現した。(◎)</p>
<p>2 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。</p> <p>(2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導の確立</p> <p>(3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立</p> <p>(4) 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成</p>	<p>(1) ア ・教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。</p> <p>(2) ア ・職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制のさらなる充実 イ ・中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。</p> <p>(3) ア ・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。</p> <p>(4) ア ・教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、効果的・効率的に職務を遂行する。 イ ・府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。 ウ ・創設されたネットフェンス等を通じ、本校教育の見える化を進める。 ・老朽化による危険な温室等の施設・設備を計画的な撤去・改修等を進める。</p>	<p>(1) ア ・遅刻による早朝指導対象生徒数を前々年度の86名以下にする。[119名] ・清掃活動の徹底等により、美化意識を向上させ、学習環境を整えていく。</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」を72%にする。[70%] イ ・年度末の進級率・卒業率を97%にする。[96%]</p> <p>(3) ア ・支援を要する生徒については、生活面、学習面等での配慮事項を明確にし組織的な指導体制を構築する。</p> <p>(4) ア ・教職員の問題事象については、事例を共有していく場をできる限り設定する。 ・教員の時間外労働時間(80時間超え)を半減する。 ・行政職員の時間外労働時間数総数(前年度)を維持する。 ・電子データによる情報共有、職員会議等でのオンライン化を図る。 イ ・学校説明会等の参加者を10%増加させる。[R1年度673人] ・開設したSNSのフォロワー数を倍増させる。[262人] ウ ・国の「スマート専門高校事業」を活用し、老朽化した危険な温室等の撤去とスマート農業を踏まえた新温室を建設する。</p>	<p>(1) ア ・遅刻による早朝指導対象生徒数は、70名に減少。(◎) ・新型コロナ対応など必然的に教室等が清潔な状態を保っている。(○)</p> <p>(2) ア ・学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」は83%に大きく増加。(◎) イ ・年度末の進級率・卒業率は97%となった。(◎)</p> <p>(3) ア ・担任・学年・学科と教育相談担当との連携体制を構築できた。(○)</p> <p>(4) ア ・職員の綱紀保持等に係る通知文等は毎回、印刷し、説明する機会を設けた。(○) ・時間外労働時間が80時間超えた教員数は前年度の倍となった。積算方法が変わったこともあるが、改善が迫られる。(△) ・三六協定を順守し行政職員の時間外労働時間数総数は前年度とほぼ同数。(○) ・校長からの主な連絡は、電子メールを活用。各教員に端末が行き届けばオンライン化は可能となる。(○) イ ・学校説明会等の参加者数は未確定。 ・SNSのフォロワー数は、475人。(◎) ウ ・温度・CO2を制御できる水耕栽培による新温室の建設工事が進み年度末に</p>

## 府立園芸高等学校

				完成した。(◎)
3 夢と志を持つ生徒の育成	<p>(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。</p> <p>・海外での研修を実施し、異文化交流等の体験により国際的な視野を育む。</p> <p>イ ・進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進路指導体制を確立する。</p> <p>ウ ・各学科の学習を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する</p> <p>イ ・農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・学校紹介による就職率 100%を維持する。農業専門学科に関連する産業分野への就職者を増加させる。</p> <p>・フィリピンでのスタディツアーを実施する。</p> <p>イ ・進路指導部と学年・学科等とが生徒情報の共有と進路指導の分担を行う。</p> <p>・国公立大学や難関私立大学への合格者12名以上にす。[10名]</p> <p>ウ ・キャリア・パスポートを課題研究や資格取得等に関連させ、キャリア形成につなげていく。</p> <p>・アグリマイスター顕彰制度認定者を8名にする。[3名]</p> <p>(2)</p> <p>ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」肯定率を74%にする。[72%]</p> <p>イ ・農業クラブ加入率を50%にする。[46%]</p> <p>・年度末の3年生卒業研究発表会を定例化し、生徒、保護者に加え、外部(中学校教員、農政・地域関係者等)から15名以上参加してもらう。[0名]</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・学校紹介による就職率100%を維持。求人企業に変化があり、農業専門学科に関連する産業分野への就職率は54%となり7%減少した。(△)</p> <p>・フィリピンでのスタディツアーは新型コロナウイルスにより中止した。(一)</p> <p>イ ・進路指導部のリーダーシップにより、進路指導体制が構築された。(○)</p> <p>・10名が難関私立大学に合格した。(○)</p> <p>ウ ・キャリア・パスポートにより、進路学習を振り返るとともに資格の取得状況が明らかになるなど、進路指導の充実につながった。(◎)</p> <p>・コロナ禍ではあったが、アグリマイスター顕彰制度認定者は7名(シルバー3人・ゴールド4人)に増加。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア ・学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」は72%にとどまった。(○)</p> <p>イ ・コロナ禍にあったため積極的な勧誘等ができず農業クラブ加入率は40%にとどまった。3年生卒業研究発表会での外部関係者の参加を控えさせた。(一)</p>